

大山崎町男女共同参画計画懇話会 議事録

日 時

令和2年2月14日（金）

開会 午前10時 閉会 同11時45分

場 所

大山崎町役場3階 中会議室

出席委員

委員 有馬 誠 司 委員 安 楽 康 史

委員 石 原 祐 次 委員 上 田 幸 代

委員 合 田 さゆり 委員 篠 田 清 子

委員 津 田 庸 子 委員 中 西 優 子

事務局

教育長、生涯学習課長、生涯学習・スポーツ振興係員

議事内容

- 1 委嘱書交付
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員・事務局紹介
- 4 議事
 - (1) 委員長・副委員長の選出
 - (2) 大山崎町男女共同参画計画について
 - ① 懇話会の趣旨説明
 - ② 「大山崎町男女共同参画計画ーみとめ愛プランー」の取組み状況
(事務局から説明)

意見交流

<委員> 統計等の数値から見ると、若い方々の意識改革が進んでいるようである。ニュース等によれば、男性の育児休業が少しは進んでいるようだが、取得しても本当に育児をしているのか、ただ休んでいるだけではないのかといった意見もあるようだ。男性がどこまでやれるのかが大事なポイントである。男性が育児や家事をすると言っても、なかなか身についていない。勉強する機会が必要である。計画の基本課題の7番に男性向け講座について記載されているが、なかなか行き難いと思われる。本当は、子どものころから身につけてはいけないのだろう。

今時、幼稚園では子どもたちは男女関係なくクッキングをしているが、とても楽し

そうに調理し、おいしそうに食べている。こういった積み重ねの教育が大切である。我々（男性）は、小・中学校で家庭科の時間があつたが、家事的なことはほとんど身につけていなかった。男性に家事が身につけていないと、共同参画は難しいのではないかと思う。

もう一つ気になったのが、資料6番で、色々な数値目標が立っているが、6年間で達成を目指していることだと思うが、⑫、⑬番の子宮がん、乳がんの検診受診率が意外と少ない。もっと推進できていると思っていた。何か理由があるのか。回答可能な範囲でお答えいただきたい。

<事務局> 検診無料クーポンをお持ちの方は無料であるが、診断に係る身体的、心理的な負担が大きいのではないかと思われる。なお、受診率は横ばいと聞いている。

<委員> 会話やコミュニケーションが大事に思う。男性、女性が相互に意見を聞き入れるということである。商工会では男性の起業が多い。夫が企業主となり、妻はサポートしている。逆に、お客様には女性が多くいらっしゃる。日常の中に多いのは女性である。その中で、色々なお話をさせていただくが、対話が大切に思う。

学校では、今までのしきたりを考えるなど色々取り組まれていると、子どもを通じて聞いている。今後も継続していただきたい。

<委員> こういう場には初めて参加するが、とても勉強になった。PTAの連絡協議会に参加しているが、PTAの役員は母親が多い。父親にも参加してもらいたいので声をかけると1～2名の参加がある。しかし、3校の代表となると男性の方をお願いすることが多くなっている。子育てには男性の力が必要である。子育てに関わる男性を、昔よりも見かけるようになった。

先ほど言っておられた子宮がん・乳がんの検診のことについては、役場からと広報おやまざきの「保健だより」でお知らせがあり、2年に1回受診の機会がある。受診率を見ると納得である。というのも、一度役場に書類を取りに行き、それから病院に行く必要があり、それが煩わしいように思う。役所の開いている時間に行かなくてはならず、数百円で検診を受けられるとはいえ平日の昼間に届けを出すのは手間である。

<委員> 幼稚園の役員でも母親が多いが、子育ての現場そのものなので、父親がお迎えに来たり、役員の中に入っていくことが望まれる。できれば「親父の会」も作ってみたいと考えている。

先ほどの、受診が進まない理由に役場に書類を取りに行くことが手間であるということだが、改善できないものか。受診率ナンバー1を目指して行政が頑張りたい。ピンクリボン活動もあり、女性の意識改革が醸成されてきている。自分の体のことであるので、ぜひお願いする。

<委員> やはり、男女共同参画でネックは子育てのところかと思う。家庭や子育て

については、社会に出ることに比べて達成感が感じられない。もちろん、卒業式の喜び等はあるが、達成感の少ない仕事のように思われる。

一方で、保育園に子どもを預けると安心、という画一的なことではない。子どもによって手をかける量は変えなくてはと思う。子育ては一律ではないため手がかかるし、様々な意見があるのではないかと思う。

最近、祖父母の子育て（孫育て）が多いと感じる。走り回っておられる。そういう面にも注目して欲しい。手助けができたらと思う。

民生委員の「子ども未来部会」では、年2回程度、平日昼間の午前中に催しを実施している。子どもたちを集めて消防署に行くなどしているが、保育園や幼稚園に上がる前の母子が来ることが多い。最近では、父親の参加も増えてきており、父親も意識しなくてはと思っている。土曜日にクッキングを開催すると父親の参加が多数あり、祖父母の参加もある。今後も継続していく必要があると感じた。

<委員> 祖父母についてのお話があったが、今、祖父母と離れて生活をしておられる方も多く、夫婦ともに働いておられる家庭では、子育てに苦労されている。少子化の問題でもあるように思われる。

<委員> 6ページの説明では、女性役員が減っているということだが、今の方が、女性が輝いているように思うので、不思議に感じる。

それから、新聞でもよく見るが、祖父母の協力がないと若い夫婦が勤められないということであり、大変実感している。私自身も仕事があるため、どうしても助けられないこともある。資料では、もっと子育て支援が進んでいるように見えるが、現実はどうでもないように感じる。

祖父母の協力については、私の周囲では、元気で暇のある高齢者が多い。何かお役に立てればと思う。

<委員> 今、高齢者が元気で助かっている状況であるが、子育てと介護の両方がのしかかると大変な状況である。

<委員> 今と昔で意識が大きく変わったように思う。孫の話を見ると、「今日のご飯はお父さんが当番で、カレーライス」と。こんなこと、昔はなかったように思う。

食事においても父親が手伝う。そういう点では、若い方の意識が出来ていると感じる。

若い母親は、子育てより働いている方がいいと言う。いいか悪いかはさておき、そうなってくると、フルタイムで働く場合、祖父母をあてにされている。資料では、もし子どもが病気などの場合、父親か母親のどちらかがお迎えに行くという回答が、思ったより多かった。夫婦のどちらかが休めるということで、自分自身の状況とは違うのだなと感じた。

それから、最近、グローバルや多様化と言われているが、話題についていくのがや

つとである。

<委員> たしかに、子育てよりも、働いている方がいいという方がいらっしゃる。家庭の事情もあるだろうが、働きたいという思いが強く、意識が変わってきているのであろう。

保育園が足りるとか足りないとか聞くが、常々思っていることだが、家庭で両親が育てるのが一番良いことに思う。したがって、そういう環境を整備することが重要に思う。育児休業等がきちんと取得できる社会環境の整備が大切である。少子化を止めることに対しても有効に思う。

<委員> 感想になるが、資料中の意識調査であるが、家事や育児について、社会も含めて(男女共同参画が)前進していることを実感する。ただ、これは意識であって、実態はどうかというところが気になる。その点について、また調べていただきたい。家事について、自身はやっているつもりだが、パートナーからの評価は低いのかかもしれない。それは、お互いに認め合っているのか。実質のところ目が行くように調査していただきたい。

中学校のことだが、現在は、男子も女子も技術も家庭も学ぶ。調理実習は男子もする。保育実習もある。「ゆめほっぺ」にご協力いただき、赤ちゃんを体育館に連れてきてもらい保育の実習のようなことも行っている。2年後の新学習指導要領の中では、介護に関する項目も入っており、男女共修になっている。夏休みの宿題では、男女とも食事またはお弁当を作り、写真に撮って報告する。

職員については、休まなくてはならない時にパートナーがどの程度休んでいるのかは把握していないが、男性職員も、子どもが病気の時や連絡がある時、早めに帰ったりすることはある。しかし、この時期だとインフルエンザで登校できない状況、平均5日から6日、子どもが学校に通えない状況になると、祖父母の協力がなくていけないのが現状である。

PTA についての話題が出たが、行事等のまとめに「男性がいい」という動きはあるが、実質日々動いているのは女性の方である。もう少し、PTA 活動や社会貢献、学校に協力していただく「中身」についても無理のない取り組みにして共にやっていけるような仕組みにしていかななくてはと思う。

<委員> 中学校の取り組みを聞き、心強く思う。子どもの世話や調理などの経験を積まなくては、協力は難しい。

職場を休める環境づくりも大切であるが、担任の先生は1週間も休めるのか。

<委員> 中学校では、1日6時間として5日間で30コマあるが、自習だけでなく、国語を社会や理科などに入れ替えて、お休みされた先生が復帰されたときに空き時間に戻すような形を取っている。教務主任や教頭先生、時には校長先生も協力して対応している。しかし、1週間は厳しいので、夫婦や家庭のバックアップなど全体体制で

対応しているのが現状である。

<委員> 男女共同参画については、やはり、子どもたちの意識が大事だというお話があったが、そうなると、小学校の6年間というのはおろそかにできないと思う。具体的な家事につながるような、例えば自分たちがどのように育ててもらったのか、身近な人への感謝の気持ちを持つことや、様々な家事分担ができるようになることで、両親や祖父母の手伝いができるようになる。そういう意識で少しずつやっていく。高学年になると、調理実習では、ごはんのみそ汁から始まって、リンゴの皮むきもさせる。

ほとんど自炊をしない教諭には、「一緒にやりましょう」ということでご飯の炊き方やみそ汁の作り方を説明した。男・女に関わらず、食育を含めて大事な視点である。子どもも教員も共に学んでいるところである。

家庭科、生活、道徳、社会科、人権教育も含めて色々な視点で男女の性差を超えてお互いに大切にしていこうということで、コミュニケーションの大切さについてのお話もあったが、本校の子どもたちは仲が良い。高学年になると、恥ずかしさが先に立って放課後も男女別々の遊びになることが多いが、集ってよく遊んでいる。家庭の温かい声掛けや地域の見守りのおかげと思う。

職員の子育て環境については、男性教職員の子育てに関する意識については変化してきており、子どもの参観・懇談についてもできるだけ行きたいということで、時間休の取得を希望される職員が増えてきている。小学校なので担任を持っている先生もいるが、調整を図りながら、なんとか叶えていきたいと考えている。お子さんが熱や病気の時に、家庭の事情もあり少し長めに休まれる場合もある。人の配置は、自転車操業のような状況であるが、何故こういう状況になるのかという根本的なところを考えると、働く人の権利でもあり、子育てをする人たちの家庭を大事にするという意識であると思う。大枠には、皆が子育てや自己実現ができる、そういう社会について何より考えていかななくてはと思う。

本校の話であるが、平成29、30年に働き方改革推進研究校として2か年指定を受け、実践を行った。その中で、PTAの方にはご理解いただき、土曜日にやっていた授業を平日に実施するという思い切った整理を行った。ご理解なくしては出来ないことで、色々なご意見も頂戴したところである。これが、良かったのかどうかという検証もまだ終わっていないが、職員については、土曜日に子育て等の時間が取れたようである。働く保護者の方は、土曜日を希望されている。どう折り合いをつけるのか、悩みながら進めているところであり、対応していくことが大事に思う。それぞれの事情を率直に伺っているところである。

<委員> コミュニケーションや認め合うこと、お互いが優しさや思いやりを持つことなどが男女共同の根本である。これらがあれば、問題が解決していくように思う。今後、日本の社会に広がるよう、まずは、大山崎町から発信していけたら嬉しく思う。

町行政に関しては、さらなる男女共同の推進をお願いしたい。

5 今後の予定等について、事務局から説明

6 閉会

7 その他

○町内の病児保育や子育てサービス、子ども食堂の実施状況等について質問等